



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

秋田県 秋田市立城東中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和4年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的：オリンピック（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名：JOCオリンピック教室
- 主催：公益財団法人 日本オリンピック委員会（JOC）
- 後援：スポーツ庁
- 協力：公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象：中学2年生
- 講師：オリンピック（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間：2022年4月～2023年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数：80校程度
- 実施方法：クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、チームワーク、フェアプレー、身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、
分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、
今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した
自己紹介



オリンピック自身の経験に基づき
「オリンピックの価値」等を
伝える



個人またはグループワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です

※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■ **オリンピック** : 鶴岡 剣太郎 先生 (スキー/スノーボード) 【出場オリンピック/トリノ2006冬季大会】

■ **期 日** : 2022年9月9日(金)

■ **ク ラ ス** : 2年1組/運動の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ 準備体操



・トリノ2006冬季大会に、スキー/スノーボード競技に出場したと自己紹介。自身がオリンピックに出場する過程で学んだことや感じたことを伝えたい。オリンピックバリューの、エクセレンス：「一生懸命楽しむ」、フレンドシップ：「皆で協力する」、リスペクト：「ルールを守る」を意識しながら運動の時間を過ごしてほしい。またオリンピックはどんな大会なのかを探求し、自分自身やクラスが目指す目標に近づくために、どんな工夫が必要かを考え、自分自身の強みも見つけてほしいと、授業の目的を伝える。ストレッチの後、準備運動として「ライン移動ゲーム」を実施。

○主運動 等



・主運動は、3チームに分かれ、「8の字跳び」を実施(全3回)。ルール説明後、作戦タイムを設け、各班で目標回数をホワイトボードに記入して開始。途中で作戦タイムを設け、班で話し合い意見を出し合った。3回目終了後、各班どんなことを工夫したかについて、「縄の持ち方を工夫し縄の長さを変えた」、「縄を回す速さを仲間の特性に合わせて調整した」等の意見が挙がった。



・運動の時間を振り返り、皆一生懸命取り組み楽しんでた。その中でオリンピックバリューについて、それぞれが感じ、自分の強みも確認できたと思う。作戦タイムで意見を出し合い工夫して取り組んだ結果、上手いこと、上手いかなかったこともあったと思うが、皆ルールを守り協力してできたことは素晴らしい。座学の時間は、運動の時間を振り返りながら、オリンピックやオリンピックバリューについて一緒に考えていこうと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 鶴岡 剣太郎 先生 (スキー/スノーボード) 【出場オリンピック/トリノ2006冬季大会】

■ **期 日** : 2022年9月9日(金)

■ **ク ラ ス** : 2年1組/座学の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ オリンピックの価値を伝える



- ・自己紹介後、オリンピック出場時の映像を見せながら、スノーボードの平行大回転競技にアジアで初めて出場したのは自身だと話す。競技中に転倒してしまったことはとても残念だったが、その経験やその時味わった悔しさがあったからこそ、今の自分がある。
- ・近代オリンピックの提唱者であるピエール・ド・クーベルタンを紹介し、オリンピックとは、出場する選手や選手を支えるスタッフだけではなく、全ての人が国境を超えた友情を感じ、努力することの大切さ等を学ぶことができる。

○個人ワーク ~ グループワーク 等



発問：運動の時間に感じたことをオリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。

発表：エクセレンス：「全力で取り組んだことでいつも以上に楽しむことができた」「努力して挑戦する」「ポジティブに捉えることができた」等

フレンドシップ：「一致団結」「全員が仲良くできた」「声を掛け合った」等

リスペクト：「コミュニケーションを取り、互いに協力できた」「相手を励ますことができた」等



- ・座学の時間を振り返り、グループワークでは皆の意見をしっかりとまとめてくれ、オリンピックバリューを実践していることは素晴らしい。これから様々なことに挑戦していく中で、上手いかわからないこともあると思うが、自分を信じて一生懸命頑張る続けることで、必ず道が開ける。チャレンジすることや、果敢に挑むことは大切だと話す。今後、オリンピックをテレビで見たり、2030年にもし北海道・札幌で冬季大会が開催されたら、今日学んだことを思い出してほしいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 佐藤 久佳 先生 (水泳/競泳) 【出場オリンピック/北京2008大会】

■ **期 日** : 2022年9月8日(木)

■ **ク ラ ス** : 2年2組/運動の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ 準備体操



・北京2008大会に、水泳/競泳で出場したと自己紹介。運動と座学の時間を通して、皆の人生の中の何かのきっかけになるような時間にしたい。
 ・オリンピックバリューの3つの価値について、エクセレンス:「卓越」「一生懸命頑張る」「努力する」、フレンドシップ:「友情」「仲間」、リスペクト:「敬意」「尊重」「お互いを理解する」「フェレアー」と説明し、特にこれからの学校生活や人生において、自分の周りにいる人達に感謝の気持ちを持ち、相手を尊重することを忘れないでほしい。準備運動では、スキップやサイドステップをしながら全身を動かす運動等を実施。

○主運動 等



・主運動は、「シュート競争」を実施(全3回)。バスケットボールコート2面を同時に使用し、1班ずつ2分間の間にポイント点が違う場所からシュートを打ち、合計点数を競う。ゴールに近いポイントを1点、遠いポイントを2点とし、マーカーの色を分ける。シュートが決まったら打った地点のマーカーを持ち自陣に戻る。途中作戦タイムを設け、各班の作戦内容を尋ねると、「ボールを手渡しではなくパスをした」、「リバウンドを早かった」、「2点の位置からシュートを打つ人をあらかじめ決めておいた」、「1点の位置からのみ確実にシュートをした」等の意見が挙がった。



・運動の時間を振り返り、シュート競争の作戦タイムでは、皆で意見を出し合いながら、一生懸命取り組んでいた。上手く得点につながらなかったとしても、結果が全てではない。全力で頑張る気持ちを持つことは、今後の自分自身の成長につながる。座学の時間は、オリンピックバリューについて、運動の時間を思い出しながら、自分自身のことに置き換えて考えてほしいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 佐藤 久佳 先生 (水泳/競泳) 【出場オリンピック/北京2008大会】

■ **期 日** : 2022年9月8日(木)

■ **ク ラ ス** : 2年2組/座学の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ オリンピックの価値を伝える



・北京2008大会で、水泳/競泳で銅メダルを獲得したと自己紹介。運動の時間で伝えた3つのオリンピックバリューを意識しながら、座学の時間も取り組んでほしい。映像を見せながら、オリンピック出場の目標を達成するまでに自身が意識したことは、何事にも全力を尽くしそれを継続すること、仲間を思いやり支え合う気持ちを持つこと、周りで支えてくれる人や応援してくる人達への感謝の気持ちを常に持つことだったと話す。

○個人ワーク ~ グループワーク 等



発問：運動の時間や、日常生活の中で感じるオリンピックバリューとはどんなことから考えてみよう。

発表：エクセレンス：「途中で諦めない」「考えながらプレーした」「1日1日を大切に」「努力を継続する」「部活でベストを尽くす」等

フレンドシップ：「皆で作戦を考えた」「友情を深めるために相手とよく話し情報共有をする」「コミュニケーションをとる」等

リスペクト：「他の班がゴールを決めたとき拍手を送った」「ルールを守った」「挨拶をしっかりとる」「感謝の気持ちを伝える」等



・座学の時間を振り返り、夢や目標を明確にし、自分は何をするべきかを考え、行動に移すことが大切だ。一生懸命頑張っても、上手くいかないことや失敗することもあると思う。しかし、失敗したことを次に活かすことができれば、自分自身を成長させることができる。これからの学校生活や今後の人生においてもとても必要なことだ。自分自身の頑張りや相手を思いやり、支えたりする行動が、誰かのためになることを忘れてほしいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 佐藤 久佳 先生 (水泳/競泳) 【出場オリンピック/北京2008大会】

■ **期 日** : 2022年9月8日(木)

■ **ク ラ ス** : 2年3組/運動の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ 準備体操



- ・北京2008大会で、水泳/競泳に出場したと自己紹介。運動の時間は、体を動かしながら怪我をしないように楽しく取り組んでほしい。
- ・オリンピックバリューについて、エクセレンス:「卓越」「一生懸命頑張る」「努力する」、フレンドシップ:「友情」「仲間」「お互いを理解する」、リスペクト:「敬意」「尊重」と説明する。
- ・準備運動では、スキップやサイドステップ等を取り入れ、最後には足を前後に大きく開くスパイダーワークを実施。

○主運動 等



- ・主運動は、「シュート競争」を実施(全3回)。バスケットボールコート2面を同時に使用し、1班ずつ2分間の間にポイント数が違う場所からシュートを打ち、合計点数を競う。ゴールに近いポイントを1点、遠いポイントを2点とし、マーカーの色を分ける。シュートが決まったら打った地点のマーカーを持ち自陣に戻る。途中作戦タイムを設け、各班の作戦内容を尋ねると、「バスケットボール経験者を先の順番にした」、「遠くからシュートチャレンジをし高得点を狙った」、「経験者がいなかったが自分達のペースで丁寧にシュートをした」等の意見が挙がった。



- ・運動の時間を振り返り、皆一生懸命取り組み、作戦タイムでは様々な作戦を立ててくれた。結果の良し悪しではなく、自分自身が一生懸命に考え、行動に移したかどうかが大変だ。座学の時間は、オリンピックバリューについて詳しく説明し、皆が運動の時間で感じたことをオリンピックバリューに結びつけて考える時間にしたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 佐藤 久佳 先生 (水泳/競泳) 【出場オリンピック/北京2008大会】

■ **期 日** : 2022年9月8日(木)

■ **ク ラ ス** : 2年3組/座学の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ オリンピックの価値を伝える



- 自己紹介の後、座学の時間は、自身のオリンピック出場に至るまでの経験談が、オリンピックバリューとどうつながっているかを話し、皆にもオリンピックバリューについて考えてほしいと授業の目的を伝える。
- オリンピック出場時の映像を見せながら、メドレーリレーで銅メダルを獲得し、夢を叶えた瞬間だったと話し、銅メダルを披露。オリンピックを経験して学んだことは、一生懸命頑張り、努力し続けること、挫折した時も周りで協力してくれる家族や仲間がいることを忘れずに感謝することだと話す。

○個人ワーク ~ グループワーク 等



発問：運動の時間や、日常生活の中で感じるオリンピックバリューとはどんなことか考えてみよう。

発表：エクセレンス：「日々の練習」「目標を持って真剣に取り組む」「全力で頑張る」「自分に自信を持つ」等

フレンドシップ：「皆で協力しながら作戦を立てる」「相手を褒め、仲間を大切にする」「皆の意見をよく聞く」等

リスペクト：「シュートが入ったら拍手する」「佐藤先生に感謝」「感謝の気持ちを伝える」「両親に感謝」「敵味方関係なく応援し合う」等



- 座学の時間を振り返り、一番大切なことは、自分自身が目標や夢をしっかり持ち、何をすべきかを考えることだ。相手のことを理解することも大切だが、まずは自分が何をしたいのか、どうすべきか、何が得意で何が苦手か等、自分自身を理解することで、考えもまとも行動に移すことができ、目標や夢に近づいていく。常に周りで支えてくれる家族、先生、友達等に感謝の気持ちを持ち、どんなことでもまず行動に移し、チャレンジしてほしいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 鶴岡 剣太郎 先生 (スキー/スノーボード) 【出場オリンピック/トリノ2006冬季大会】

■ **期 日** : 2022年9月9日(金)

■ **ク ラ ス** : 2年4組/運動の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ 準備体操



・トリノ2006冬季大会にスキー/スノーボードで出場したと自己紹介。この時間は今しかない貴重な時間であり、オリンピックとはどのような大会なのかを探求してほしい。挑戦できることをたくさん増やし、今の自分よりも向上できるものを探し、自分自身の強み、クラスの強みを授業を通して見つけてほしいと話す。

・準備運動では、「じゃんけんゲーム」、「かえる倒立」、「ボールパス回し」を実施。

○主運動 等



・主運動は、3チームに分かれ、「8の字跳び」を実施(全3回)。ルール説明後、作戦タイムを設け、各班で目標回数をホワイトボードに記入して開始。途中で作戦タイムを設け、班で話し合い意見を出し合った。3回目終了後、各班どんなことを工夫したかについて、「縄の長さを短くした」、「目標回数を変更し達成感を味わった」等の意見が挙がった。



・運動の時間を振り返り、主運動の「8の字跳び」では、目標を達成し気持ちが上がった班や、達成できず悔しい気持ちになった班もあったと思うが、皆で協力し、作戦タイムで意見を出し合ったことで、自分自身や仲間の良さ等が発見できたことは素晴らしい。皆の強みについて見つかったかを尋ね、全力で楽しむことができた、ミスをして友達と一緒にまたやろうと言えた等の意見が挙がった。座学の時間は、運動の時間に感じたことを振り返り、オリンピックバリューについて考えていきたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 鶴岡 剣太郎 先生 (スキー/スノーボード) 【出場オリンピック/トリノ2006冬季大会】

■ **期 日** : 2022年9月9日(金)

■ **ク ラ ス** : 2年4組/座学の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ オリンピックの価値を伝える



- 運動の時間で、皆の強みを発見できた。座学の時間ではその強みや良さを言葉にまとめてほしい。またオリンピックはどのような大会なのか、オリンピックバリューとどのように繋がっているのか、皆と一緒に考えたいと、授業の目的を伝える。
- オリンピック出場の映像を見せながら、スノーボードの平行大回転競技にアジアで初めて出場したのは自身だと話す。競技中に転倒してしまったことはとても残念だったが、その経験やその時味わたった悔しさがあったからこそ、今の自分があり、そのことが励みであり、強みでもある。

○個人ワーク ~ グループワーク 等



発問：運動の時間で感じたことをオリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。

発表：エクセレンス：「何事にも全力で取り組む」「欠点を見つけて改善し合う」「失敗を反省する」「全力で楽しめる」等

フレンドシップ：「皆でよく考えられること」「声を掛け合う」「励まし合う」「仲間と協力できた」等

リスペクト：「ルールを守る」「仲間に感謝できた」等



- 座学の時間を振り返り、オリンピックだけでなく、皆の日常生活の中にもオリンピックバリューがあることを感じてもらえたと思う。今後の人生の中で、様々なことに挑戦し、自分自身の強みを持つことで、人の役に立つことができる。壁にぶつかったときは周りの助けを求めながら、辛いことや苦しいことも乗り越えてほしいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 鶴岡 剣太郎 先生 (スキー/スノーボード) 【出場オリンピック/トリノ2006冬季大会】

■ **期 日** : 2022年9月8日(木)

■ **ク ラ ス** : 2年5組/運動の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ 準備体操



・トリノ2006冬季大会でスキー/スノーボードに出場したと自己紹介。運動の時間は、「オリンピックとはどのような大会が探求してほしい」、「今の自分がより向上できることを発見してほしい」、「一生懸命に取り組みながら楽しんでほしい」と、3つの目標を伝える。オリンピックバリューについて、エクセレンス:「全力で取り組む」、フレンドシップ:「仲間と協力する」、リスペクト:「ルールを守る」と説明し、運動の時間は3つの価値を意識しながら取り組んでほしい。準備体操後、準備運動として「じゃんけん勝ち抜け」を実施。

○主運動 等



・主運動は、3チームに分かれ、「8の字跳び」を実施(全3回)。ルール説明後、作戦タイムを設け、各班で目標回数をホワイトボードに記入して開始。途中で作戦タイムを設け、班で話し合い意見を出し合った。3回目終了後、各班どんなことを工夫したかについて「声を掛け合った」、「縄を短くした」、「引っ掛かったらすぐに外に出る」、「縄を回すスピードを速くした」等の意見が挙がった。



・運動の時間を振り返り、授業の最初に伝えた3つの目標について確認し、作戦タイムで皆が一生懸命話し合ったり、声を掛け合い、仲間同士を思いやりながら取り組んでいた。上手いかなかった悔しさや、目標回数を達成した喜び等、笑顔で楽しんで良かった。座学の時間は、運動の時間に感じたことを振り返り、オリンピックバリューに当てはめて考えようと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 鶴岡 剣太郎 先生 (スキー/スノーボード) 【出場オリンピック/トリノ2006冬季大会】

■ **期 日** : 2022年9月8日(木)

■ **ク ラ ス** : 2年5組/座学の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ オリンピックの価値を伝える



- 運動の時間を感じたことや経験したこと、これからの皆の夢や目標、将来どのようになりたいか等を考え、そのことがオリンピックバリューにどのように結びついているかを考える時間にしたいと、授業の目的を伝える。
- オリンピック出場時の映像を見ながら、スノーボードのパラレル大回転競技にアジアで初めて出場したのは自身だと話す。競技中に転倒してしまったことはとても残念だったが、その経験やそのとき味わった悔しさがあったからこそ、今の自分があり、そのことが励みであり、強みでもある。

○個人ワーク ~ グループワーク 等



発問：運動の時間で感じたことをオリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。

- 発表：エクセレンス：「目標を達成できた」「全力で頑張った」「じゃんけん勝ち抜けの作戦で、みんなでじゃんけんをすることを思い付いたこと」等
 フレンドシップ：「励まし合う」「声を掛け合う」「協力し合う」「話し合う」「失敗しても何度も声を掛け合う」等
 リスペクト：「譲り合う」「じゃんけんで自分から負けてくれた人への感謝」等



- 座学の時間を振り返り、オリンピックバリューはオリンピックに出場した人だけのものではなく、皆の日常にある。「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」の3つの言葉をこれからも忘れずにいてほしい。オリンピックをテレビで見る際も、頭の片隅に置いて見てもらえたら嬉しい。今後、合唱コンクール等の学校行事の際も、皆で協力して取り組む上で、今日学んだオリンピックバリューを意識しながら何事にも挑戦してほしい。様々な困難にぶつかっても、乗り越えてほしいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 佐藤 久佳 先生 (水泳/競泳) 【出場オリンピック/北京2008大会】

■ **期 日** : 2022年9月9日(金)

■ **ク ラ ス** : 2年6組/運動の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ 準備体操



・北京2008大会に、水泳/競泳で出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて、エクセレンス:「卓越」「一生懸命頑張る」「努力する」「ベストを尽くす」、フレンドシップ:「友情」「協力」「思いやり」、リスペクト:「敬意」「尊重」と説明し、運動の時間はオリンピックバリューを意識しながら取り組んでほしいと、授業の目的を伝える。準備運動では、スキップやサイドステップをしながら全身を動かす運動を実施。

○主運動 等



・主運動は、「シュート競争」を実施(全3回)。バスケットボールコート2面を同時に使用し、1班ずつ2分間の間にポイント数が違う場所からシュートを打ち、合計点数を競う。ゴールに近いポイントを1点、遠いポイントを2点とし、マーカーの色を分ける。シュートが決まったら打った地点のマーカーを持ち自陣に戻る。途中作戦タイムを設け、各班の作戦内容を尋ねると、「2点のポイント地点から積極的にシュートを打つ」、「シュート位置を班の中で分担当した」等の意見が挙がった。



・運動の時間を振り返り、シュート競争では、一生懸命に取り組んだが、記録が伸びなかった班もあったが、最後まで諦めずに挑戦することは素晴らしい。スポーツだけではなく勉強や習い事でも、目標や夢に向かって一生懸命努力する気持ちを忘れずに、行動に移してほしい。結果だけが全てではなく、頑張る過程が重要である。どんなこともよく考えて行動し、支えてくれる人や仲間を思いやりながら、感謝の気持ちを忘れずにいてほしいと伝え、授業終了。

■オリンピック：佐藤 久佳 先生 (水泳/競泳)【出場オリンピック/北京2008大会】

■期 日：2022年9月9日(金)

■ク ラ ス：2年6組/座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・北京2008大会で競泳のメドレーレーダーで銅メダルを獲得した映像を見せ、その後自身が獲得した銅メダルを披露。自身がオリンピックを目指す上で、オリンピックバリューをどのように意識していたか、またオリンピックを通して何を学んだか等を話す。皆も自分自身の夢や目標に向かっていくために、オリンピックバリューがどのようにつながっていくかを考える時間にしたいと、授業の目的を伝える。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間や、日常生活の中で感じるオリンピックバリューとはどんなことから考えてみよう。

発表：エクセレンス：「負けたくない気持ちで取り組んだ」「途中で諦めなかった」「全力で取り組んだ」等

フレンドシップ：「皆を応援した」「声を掛け合った」「失敗をフォローした」「声を掛け合うことで力が発揮できた」等

リスペクト：「仲間が失敗しても責めなかった」「シュートを決めるときに拍手をした」「ルールを守った」等



・座学の時間を振り返り、目標や夢に向かう上で、どんな努力をしたか、どのように結果を積み重ねていくかで、今後の人生が変わり、良い結果につながっていく。そのために今何をするか、どんな目標を立てるかを考えることが大切だ。自分自身もちろん頑張るが、誰かのために頑張るという気持ちを持つことも大切だ。オリンピックバリューの「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」の3つの価値を忘れずに、これからの学校生活や将来の夢や目標に向かって歩んでほしいと伝え、授業終了。

■ 記念品贈呈

・2年1組



・2年2組



・2年3組



・2年4組



・2年5組



・2年6組



■ 修了証贈呈

